

1 主題名 性の多様性から学ぶ (C 公正、公平、社会正義)

2 指導計画 (他教科等との関連)

第1次 性の多様性について理解を深める活動を通して、誰もが住みやすい社会を考える (本時)

第2次 にじいろ i-ru さんの講演を聞く

第3次 性の多様性について理解を深める活動を通して、自分の生き方を見つめる

3 本時の学習

(1)ねらい

性の多様性を考えることを通して、性的マイノリティの人々についての理解を深め、誰もが過ごしやすい社会を実現しようとする心情を育む。

(2)人権教育を通じて育てたい資質・能力

- ・差別や不合理などの現存するさまざまな人権問題を解決していこうとしている。(知②③技③④)
- ・お互いの人権を尊重し、権利と責任について理解する。(知①)

4 準備 パワーポイント、ワークシート

5 学習過程 ※「U」とは、生徒の学習効果を上げるために、授業を個人→班→全体→個人と分け思考させる授業スタイルのこと

	・学習活動 ◎主発問 ○補助発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点(※)と評価(◆)
導入 U1 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業のめあてを知る。 「誰もが過ごしやすい世界とは？」 ・タレントの写真を見せ、「この人たちは、どういう(個性の)人？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「女装している」 ・「男なのに、男が好き」 ・「男性か女性かわからない」 	<p>※写真の人たちを侮蔑する発言に気をつける。</p>
展開① U2 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTについて理解する。 「身体の性」「心の性」「好きになる性」などがあり、その表現も自由であることを理解する。 ・LGBTに関するクイズを行う。 ①同性愛者は治療が必要？ ②「ホモ」は差別用語？ ③自分の「体の性」「心の性」に違和感を持つのは何歳ぐらい？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「性同一性障害」 ・「同性愛」 ・「異性愛」 	<p>※様々な立場の人が存在することを意識させる。</p> <p>※個性のひとつであり、病気でもなく変えられないものであることをおさえる。</p> <p>※発想が広がるヒントを与える。</p> <p>※②差別的に使われてきた言葉であり、正しい言葉の使い方を示す。</p>

展開② U3 10分	◎LGBTの人たちの生活は快適だろうか？不便だろうか？ ・ホワイトボードに名前カードを貼り、自分の考えを表示する。 ・意見を班で交換する。	【不便である】 ・(肉親も含め)周りから理解されにくく、就職などでも不都合が起きている。色眼鏡で見られる。 ・まだ世間の偏見や固定観念が強い。 【快適である】 ・本人たちは幸せである。	※たくさんの意見を聞かせ、色々な意見を多面的に捉えられるように助言する。 ※自分の考えの変容も伝えられるように助言する。 ◆多様な視点に立った意見を持って話し合いをしている。
展開③ U4 15分	○なぜ不便な面が多いのだろうか？ ・人権を保障されていないからだという理解させる。	・環境や人の心が整備されておらず、受け入れられていないから。	※心も社会の仕組みも様々な人々との共存を受け入れ、だれもが快適に過ごせる社会を目指せるよう、前向きな評価のコメントをする。 ◆多様性を理解し、誰もが過ごしやすい社会を実現しようとする自分の考えが、ワークシートに書かれている。
まとめ U5 5分	・授業の振り返りをする。 ○授業の感想を書こう。		

生徒の感想から

※単元計画や授業づくり等を考えられる際に参考にしてください。

- トイレとかで快適に生活できなかつたり、まわりの人の理解がなかつたりするせいでつらい思いをしている人がいることがわかりました。
- LGBTの人たちについてよくわかったし、みんなが快適に過ごせる社会になるといいなと思った。
- まだ自分の身の回りでそんな人に出会ったことはないけど、もし、友だちや知り合いにLGBTの人がいたら自分はどんな風に対応するのかなと考えられました。
- 男性が好きならそれでいいし、女性が好きならそれでいいです。人はみんなちがうので、それを批判するのはよくないと思いました。
- マイノリティーの人は他者におかしいと思われて差別があるんじゃないか、マイノリティーの人も他者と比べてしまって不安になって自分がマイノリティーなんですということを自然に言えないんじゃないか。
- 僕ができることはそういった方たちをバカにしないこと。バカにしている人がいたら乗っからずに指摘できるようになりたい。
- 人権はだれもが持っているもので、自分の個性や特性でそれがおかされることがあってはいけない。人の個性を互いに認め合うことでどんな人でも快適に過ごすことが可能になる。